

地域の会



▲第74回定例会（柏崎原子力広報センター）

◀第73回定例会（柏崎原子力広報センター）

CONTENTS

第73回定例会
東京電力、原子力安全・保安院から
状況説明を受け質疑応答 ……………2

第74回定例会
公開勉強会及び燃料棒からの
放射性物質の漏えいについて説明を受け質疑応答 ……………3

発電所を巡る主な動き
地域の会に寄せられた声「みんなの広場」 ……………4

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会（「地域の会」）

柏崎刈羽地域では、現に存在する原子力発電所と対峙して生活せざるを得ません。それが事故無く稼動することは、個々の考え・主張の如何によらず、住民の最低かつ共通の思いです。

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

地域の会 概要

- ①会員は、柏崎市、刈羽村に在住し、会が認める各種団体および地域の推薦を受けた24名の委員で構成。任期は2年。
- ②会の任務：(1)原子力発電所の運転状況及び影響等の確認・監視
(2)事業者等への提言
(3)会での議論、活動等の住民への情報提供
(4)委員の研修
(5)その他会の目的を達成するために必要と認められる事項
- ③県、市、村、国、事業者はオブザーバー、又は説明者として出席
- ④会議の種類：定例会（毎月1回）
臨時会（必要に応じ開催）
※会は、原則すべて公開。

第73回定例会

東京電力、原子力安全・保安院から状況説明を受け質疑応答

第73回定例会の概要

開催日	平成21年7月1日(水)
場所	柏崎原子力広報センター(研修室)
出席者	22名(欠席2名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村 原子力安全・保安院、保安検査官事務所、 地域担当官事務所、東京電力(株)
内容	●前回定例会以降の動き ●7号機プラント全体の起動試験の結果、 6号機の点検・評価状況及び地震の際 の上下動が大きかった原因について、発 電所建屋のひび等 ●7号機及びその他の号機の点検状況 ●質疑応答 他



東京電力から「7号機プラント全体の起動試験の結果、6号機の点検・評価状況及び地震の際の上下動が大きかった原因について、発電所建屋のひび等」、保安院から「7号機及びその他の号機の点検状況」について説明を受け、各委員から質問及び意見・要望がだされた。

〔質疑応答〕

Q 建屋のひび割れの調査結果報告は、なぜ6、7号機分だけなのか。1、5号機はどうなっているのか。

東京電力 今回は国の審議が終わった6、7号機分を報告した。他の号機も調査をしているので、今後報告したい。

Q 6号機の地震の際の上下動が大きかった原因として、小さな余震の一つに対して、ロッキング現象という仮説で説明しているがすべての余震でも当てはまっているのか。少なくとも、最大余震で検証すべきである。

東京電力 地震の大きさではなく、発

生源も近く、ロッキング現象を起こしそうな余震をひとつだけ選び、評価した。

Q 地質・地盤に関して様々な問題が残っているにも関わらず、今後検討しますという形で問題をすべて先送りしているのは東京電力のいう安全第一と矛盾するのではないか。また、保安院もそれを追認するだけなのか。

東京電力 従来から必要なことはやってきた。今後も疑問に答えられるよう、知見の拡充に努めたい。

保安院 現在日本中の発電所で新しい耐震指針に従ったバックチェックを行なっているが、常に新しい知見を積極的に捜し求めて、必要があれば評価し直すことが大事である。そして、それに則った活動を行うよう各電力会社にも求めている。東京電力に対しては、オープンな姿勢で、地元と一緒に対処したらどうかと話をした。

Q 7号機の営業運転の開始はどこで決められるのか。

東京電力 現在、プラント全体の機

能試験結果を国の審議会に報告し、継続運転に問題ないと判断された。また、今回の停止期間中には、あわせて定期検査も行っており、国の検査で合格すれば営業運転開始となる。なお、県、市、村からは、県技術委員会による審議結果を確認するよう申し入れがなされている。

Q 現在、起動試験中だが、発電された電気はどうなっているのか。

東京電力 電気は貯められないので、関東地方に送電し使われている。

Q 放射線が人体に与える障害の程度を正確に科学的に推定することが不可能ならば、低線量であるからと安全を過小評価するべきではないか。

保安院 国際放射線防護委員会(ICRP)は、放射線量が低くてもがんなどの発生率が比例するとの前提でリスクと放射線利用のプラス、マイナスを考慮し、年間1ミリシーベルトという基準を勧告している。

Q 放射線の影響でDNAに傷がついても復元力があるとのことだが、確実に元に戻るとは思えない。

保安院 専門性の高い分野であり、専門家に聴くべきだが、ガン細胞の増殖を免疫細胞が防いでいると聞いている。このような生物の持っている機能を総合的に考えていくことが必要と思う。

Q 7号機の起動試験の評価結果はどのように県と市、村からの同意を得るのか。また、6号機を含めた他号機の起動試験入りについて、手順やルールが決まっていれば教えてほしい。

新潟県 7号機の運転再開についての知事の答弁では、起動試験の結果を技術委員会が議論し、その内容を住民説明会などで県民に伝え、運転再開を了

承する際に付した条件が満たされているか確認したうえで判断する。(条件とは起動試験の中間段階、最終段階で技術委員会による審議を受けて結果を確認し、原子力安全・保安院より定期検査終了証の交付を受けるための手続きをするなど四つ)。また、6号機を含め他の号機について、耐震安全性や設備の健全性に対し地震・地質、設備・耐震の各小委員会をはじめ、技術委員会、県民の意見、東京電力の今後の対応を踏まえ、予断を持たず対応していきたい。

柏崎市 7号機の再開について、安全協定にもとづき、県と市、村が意見をすり合わせて一致した中で再開を決定する。

Q 中越地震や中越沖地震、そして岩手・宮城内陸地震等では、国が調査の対象としていない未知の断層で地震が起きたといわれている。地震の被害を最小限に抑えるためにも一刻も早く活断層の存在を示す地図を作してほしい。

保安院 文部科学省で活断層の地図の作成に着手したと聞いている。

Q モニタリングポストの放射線の計測値が最近上がっている。原因は何か。

新潟県 モニタリングポストの計測値は県の放射線監視センターで常に把握している。雨が降ると放射線量上がる。

〔前回定例会における質問の回答〕

Q 7号機の起動試験で、東京電力は「必要があれば原子炉を停止し原因究明対策を講じたい」としているが、停止に至るまでにどのようなプロセスで決定されるのか。

東京電力 何か大きな異常があると原子炉は自動的に停止するシステムと

なっている。また、当直長などが運転継続が無理だと判断して止める場合もある。所内の事故・故障等検討会でプラントの状況を判断し、停止を決定する。

〔各委員からの意見・要望〕

●いろいろな事象があるが、改善されて安心感につながっている。早めの営業運転を望む。早く以前のような発電所との関係を築いてほしい。

●資源エネルギー庁が6月に取りまとめた「原子力発電推進強化策」は国策として更に原子力発電を進めるというもので、県技術委員会においても拙速な形で国に同調させられたという印象を受けており、地元住民として納得できない。国策が安全、安心を重視する方向へ変わっていくように熱望する。



第74回定例会

公開勉強会及び燃料棒からの放射性物質の漏えいについて説明を受け質疑応答

（身の回りの放射線について）

第74回定例会の概要

開催日	平成21年8月5日(水)
場所	柏崎商工会議所大研修室
出席者	22名(欠席2名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村 原子力安全・保安院、保安検査官事務所、 地域担当官事務所、東京電力(株)
内容	●公開勉強会(身のまわりの放射線について) ●前回定例会以降の動き ●7号機における燃料棒からの放射性物質の漏えいについて説明 ●質疑応答 他



公開勉強会として、東京大学環境安全本部准教授の飯本武志氏を講師に、テーマ「身のまわりの放射線」を講じ、その質疑応答後、東京電力と原子力安全・保安院から7号機における燃料棒からの放射性物質の漏えいについて説明を受け、各委員からの質問及び意見、要望がだされた。

【講演についての質疑応答】

Q 自然放射線と人工放射線、内部被ばくと外部被ばくの違いは何か。

講師 人工放射線と自然放射線も放射線による影響等は同じだ。放射線源が人工のものか、自然のもので管理の仕方が違う。また、内部被ばくと外部被ばくの違いは、放射線を身体の外から受けるか、内から受けるかの違いである。被ばくの人体への影響は外部、内部に関わらずシーベルト(Sv)という単位で表す量で評価する。

Q 原子力発電所からの放射線の影響を考えるには、何を基準にしたらいいのか。

講師 線量、つまりシーベルトで考えるのがわかりやすい。法律では一般人の発電所からの被ばく量は1年間に1ミリシーベルト(1000分の1シーベルト)を超えてはいけないと決められている。これを基準に考えればよいと思う。

Q 中越沖地震の際、発電所から4億ベクレルのヨウ素が放出されたとのことだが、ガンマ(γ)線しか調べていない。内部被ばくで問題となるアルファ(α)線とベータ(β)線は、どのように確認するのか。

講師 ガンマ線を測定することで、ヨウ素の放出量がわかり、それを内部被ばくに換算して評価する。個別核種のアルファ線やベータ線を測るのは容易ではないので色々な方法を組み合わせで評価している。

Q 「被ばく」という言葉は、広島や長崎の被爆をイメージする。新しい表現はないものか。

講師 そのような議論も聞くが、放射線被ばくには原爆のイメージだけではないと思う。

く、自然界にも放射能があり、常に被曝していることを理解することも大切だと思う。

【各委員から講演についての感想】

●放射線の単位の説明を、お金に例えたのには驚いた。お金は多ければ夢につながるが、放射線は数値が大きくなれば不安が増す。例えとして適当なのか疑問。

●放射線は、生活の中で利用されており、身近で必要なものもあると思う。ベクレルやシーベルトなどの単位の概念が理解できた。許容範囲の基準が分かれば放射線に過敏になることはないと思う。

【第74回定例会質疑応答】

Q 7号機燃料集合体からの放射性物質漏えいは1万カウントを超えた。4月にあった志賀原発の場合は千カウント程度、7月23日の7号機の値が高いのはなぜか。

東京電力 それぞれ感度が違う機器で測定したため、特に大きな値が出たということではない。

保安院 他の同様の事例に比べ、今回の7号機での値が特段大きいとは認識していない。

Q 7号機燃料集合体からの放射性物質漏えい対策として、挿入した制御棒の本数が他の事例と比較して、多いのではないか。また、異常がある集合体は何体か。

東京電力 今回は5本の制御棒を挿入した。このうちの2本は念のため途中まで挿入しているもの。したがって、漏えいを抑制するための制御棒は3本。異常のある集合体は1体と考えている。

保安院 炉心の外縁部は比較的制御棒の効きが悪いため、念のために3本ではなく5本挿入すると聞いた。この本数が多からといって問題になるものではない。

Q 地震後、7号機の燃料集合体を20体ほど調べ、そのうちの2体をファイバースコープで調べたところ、1体に異常があったと聞いた。半分は異常があったとも言えるのに、なぜ全部調べないのか。

保安院 中越沖地震による影響を確認するために、施設の健全性と新耐震設計審査指針に基づく解析で評価をした上で、代表的な20体を選んで外観検査を行い、さらに2体はファイバースコープを入れて確認した。その確認の途中で、1体にワイヤーブラシの先のような異物が見つかったが、これは地震とは関係ない。原子炉の中から小さい異物をすべて除くのは困難。異物などが原因で偶発的に燃料棒に穴が開くことはあるが、安全上問題がないよう規制している。

Q 過去の同様のトラブルではいずれも燃料集合体を健全なものと交換している。今回は交換しないのか。

東京電力 今後、ヨウ素濃度が更に上昇すれば停止して交換する。当面は監視強化で運転する。

Q 7号機では異物フィルター付燃料集合体を使っているのか。

東京電力 大半がフィルター付に交換されているが、96体が未交換。

Q 過去に定期検査を待たずに、運転を止めて燃料集合体を交換した理由は何か。

東京電力 気体状の放射性物質あるいは炉水中のヨウ素の測定値に大きな変化が見られたため、原子炉を止めて燃料交換したものの。

【各委員からの意見・要望】

●東京電力も保安院も、「検査で完全な状態を確認した後営業運転に入る」との説明を我々にしてきた。しかし「異常があってもきちんと監視しているから良い」に変わった。これでは不自信を抱く。未曾有の地震に襲われた発電所なのだから当初説明どおり完璧な状態にしなければ困る。

●規制官庁の保安院は、問題のある燃料は取り替えさせるのが当然の責務。異常がわかっているながら営業運転を続けるというのは問題。原発立地地域の住民にとって許せぬこと。

●7号機燃料集合体からの放射性物質漏えいについて、その値が排気筒モニタが検知しないぐらいの値なのであれば、それは基準値以内であると判断したい。

●地震以後の復旧や営業運転に向けてのステップごとにトラブルが続いており、住民の不安をかきたてている。

●問題のある燃料集合体が特定できるのであればきちんと換えてほしい。営業運転に向けて東京電力も保安院も更に厳しさをもって対処しているのではと期待したが裏切られた気がする。

●放射線量が微量とはいえ、度重なって放射線被ばくを受けると、子孫にどのような影響するのか非常に不安である。



発電所を巡る主な動き (6月4日~8月5日)

- 6月4日 保安院 耐震・構造設計委員会 構造WG 開催
- 6月5日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業状況および不適切について公表
- 6月6日 7号機 新新潟中越沖地震後のプラント全体の機能試験の進捗状況について発表
- 6月7日 7号機 プラント全体の機能試験における多ピン駆動原子炉給水ポンプの吐出弁からの漏れについて公表
- 6月8日 7号機 新新潟中越沖地震後のプラント全体の機能試験の進捗状況について定格熟出力到達後の評価について公表
- 6月9日 保安院 火災防護WG委員による柏崎刈羽原子力発電所の火災対策状況について現地調査及び柏崎刈羽原子力防災センターで合意を達成
- 6月9日 保安院 耐震・構造設計委員会 構造WG 開催
- 6月10日 柏崎市議会 7号機のプラント試験に対する確認状況について説明
- 6月10日 新潟県 柏崎市 安全協定に基づく月状確認
- 6月11日 保安院 刈羽協議会 7号機のプラント試験に対する確認状況について説明
- 6月11日 新潟県 柏崎市 安全協定に基づく月状確認
- 6月12日 新新潟中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適切について公表
- 6月12日 新潟県 技術委員会 設備健全性・耐震安全性に関する小委員会 開催
- 6月12日 3・4号機 サビ建屋連絡通路(屋外)における人が発生していることについて公表
- 6月15日 保安院 耐震・構造設計委員会 合同WG 開催
- 6月16日 保安院 原子力施設安全情報調査委員会において、1号機の原子炉圧力容器計装ノズルに関する申告の調査結果の取組
- 6月16日 6号機における発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針の改訂に伴う耐震安全性評価結果報告書(改訂版)の提出について公表
- 6月16日 7号機 原子炉建屋およびタービン建屋におけるひび割れの補修報告書および同発電所6号機原子炉建屋屋根下および排気筒にける高力ボルト点検報告書の提出について公表
- 6月17日 1号機における水位計配管取替工事に関する指示書の受領について公表
- 6月17日 保安院 耐震・構造設計委員会 構造WG 開催
- 6月18日 新新潟中越沖地震後の点検・復旧作業状況および不適切について公表
- 6月19日 1号機における水位計配管取替工事に関する調査結果の経済産業省原子力安全・保安院ならびに新潟県の報告について公表
- 6月19日 4号機 変圧器付近(屋外)における人が発生していることについて公表
- 6月20日 7号機 新新潟中越沖地震後のプラント全体の機能試験の進捗状況について最終評価について公表
- 6月23日 保安院 6号機建屋に生じたひび割れの補修状況に関する立入検査を実施
- 6月23日 荒浜側洗濯設備建屋付近(屋外)における油漏れについて公表
- 6月23日 7号機に関する新新潟中越沖地震後の設備健全性に関するプラント全体の機能試験 評価報告書の経済産業省原子力安全・保安院の提出について公表
- 6月24日 6号機に関する新新潟中越沖地震後の設備健全性に関する点検 評価報告書の経済産業省原子力安全・保安院の提出について公表
- 6月24日 6号機に関する新新潟中越沖地震後の設備健全性に関するプラント全体の機能試験 評価計画書の経済産業省原子力安全・保安院の提出について公表
- 6月24日 保安院 中越沖地震における原子炉施設に関する調査 対策委員会 開催
- 6月25日 保安院 7号機の安全上の問題はなかと判断 6号機についても起動に安全上の問題はなかと判断
- 6月25日 保安院 内閣府原子力安全委員会に、7号機のプラント全体の設備健全性 6号機の耐震安全性システム全体の設備健全性について報告
- 6月25日 保安院 東京電力から、6号機の制御駆動機構と制御棒の結合不良に関する原因と中長期的な対策に係る最終報告を受領
- 6月25日 6号機制御棒駆動機構と制御棒の結合不良に関する最終報告の経済産業省原子力安全・保安院の提出について公表
- 6月25日 5号機海水熱交換器建屋(非管理区域)における海水の流入について公表
- 7月1日 保安院 刈羽協議会及び柏崎市議会 7号機、6号機の確認状況について説明
- 7月2日 新新潟中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適切について公表
- 7月3日 7号機のプラント全体の機能試験完了の二報告ならびに6号機の運転再開のお願いについて公表
- 7月4日 保安院 柏崎市産業文化会館において、7号機、6号機の確認状況について住民説明会を開催
- 7月7日 新潟県 新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会 開催
- 7月9日 保安院 技術委員会 設備健全性・耐震安全性に関する小委員会 開催
- 7月9日 保安院 独立行政法人原子力安全基盤機構(NIES)が、柏崎耐震安全センターの設置を公表
- 7月11日 新潟県 中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適切について公表
- 7月11日 新潟県 子ササニル新潟において、下越地区住民説明会を開催
- 7月11日 新潟県 上越文化会館において、上越地区住民説明会を開催
- 7月12日 新潟県 柏崎市民フザにおいて、中越地区住民説明会を開催
- 7月14日 新潟県 柏崎市 刈羽協議会 安全協定に基づく月状確認
- 7月15日 保安院 耐震・構造設計委員会 構造WG 開催
- 7月16日 5号機 原子炉建屋屋上(非管理区域)における人が発生していることについて公表
- 7月16日 保安院 原子力施設 発電所再処理施設、燃料加工工場等の平成20年度の放射性廃棄物の管理状況 放射線業務従事者の線量管理状況及び平成20年度下期放射線管理報告を公表
- 7月16日 知見の拡充に向けた取り組みに関する資料の新潟県への提出について公表
- 7月20日 新新潟中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適切について公表
- 7月20日 保安院 柏崎市民フザ西いさき館において、柏崎市と共催で6号機の耐震安全性設備健全性等の評価結果について市民説明会を開催
- 7月21日 新潟県 知事 技術委員会 会長代理が7号機の起動試験等に係る技術委員会の評価を報告
- 7月22日 新潟県 柏崎市 刈羽協議会 安全協定に基づく月状確認
- 7月22日 保安院 柏崎市民フザにおいて、柏崎市と共催で6号機の耐震安全性設備健全性等の評価結果について市民説明会を開催
- 7月23日 新潟県 技術委員会 設備健全性・耐震安全性に関する小委員会 開催
- 7月23日 保安院 東京電力から特別な保全計画等の届出を受領
- 7月23日 保安院 7号機の高感度オプガスモニターの指示値上昇について状況及び外部への放出がないことを確認
- 7月23日 原子力発電設備の保全活動の充実に係る検査制度の導入にともなう7号機の保全計画の変更届出について公表
- 7月23日 1号機タービン建屋大物搬入口における人が発生していることについて公表
- 7月23日 7号機気体廃棄物処理系の高感度オプガスモニターの指示値上昇について公表
- 7月23日 7号機気体廃棄物処理系の高感度オプガスモニターの指示値上昇について公表
- 7月24日 新新潟中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適切について公表
- 7月24日 保安院 東京電力に対し、7号機の高感度オプガスモニターの指示値がさらに上昇したことに際し、燃料棒の位置確認を含めた原因究明 対策について報告するよう指示
- 7月24日 新潟県 東京電力に対し、7号機の高感度オプガスモニター指示値上昇の原因と今後の対応について報告したうえで今後の運転の手順を進めるよう要請
- 7月24日 新潟県 技術委員会 地震・地盤に関する小委員会 開催
- 7月24日 7号機気体廃棄物処理系の高感度オプガスモニターの指示値上昇に関する調査状況について公表
- 7月27日 新潟県 柏崎市 刈羽協議会 安全協定に基づく月状確認
- 7月29日 保安院 5号機の建物 構築物の補修・点検について、構造WGの専門家と立入検査及び現地調査を実施
- 7月30日 保安院 東京電力から提出された燃料棒から原子炉水のガス状放射線物質の漏洩の原因究明と対応について委託 評価
- 7月30日 7号機における燃料棒からの放射性物質の漏れについて調査結果について公表
- 8月1日 新新潟中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適切について公表
- 8月1日 新潟県 東京電力に対し、技術委員会の審議を受け放射性物質漏洩対応が妥当と判断されるまでは営業運転に移行しないよう要請
- 8月1日 7号機の出力上昇の開始について公表
- 8月5日 新潟県 技術委員会 地震・地盤に関する小委員会 開催

※号機のみ記載は柏崎刈羽原子力発電所分
 ■色は東京電力の動き ■色は行政の動き

地域の会に寄せられた声 みんなの広場

若者の意識は

柏崎市 石橋 直志さん

私がこの世に生を受けるはるか以前から、原子力発電所は彼の地に聳え立っていました。幼いころから身近にあるものというのは、客観的にとらえることが難しいものです。私も原発がリスクを伴った施設であるということ、頭では理解していたものの、意識して深く考察するというのを今までしたことがありませんでした。

大学時代、上京していたときなどは、恥ずかしながら思い出すことのほうが稀でした。さすがに中越沖地震の時には身の凍る思いでしたが、現在、柏崎・刈羽地域在住の10代、20代の若者世代にも、このように原発に対して極めて無意識な人間が少なくないのかもしれない。

なぜ原子力発電所がこの場所に建設されたのか、どういう経緯で、どこから、どんな働きかけがあったうえで建設が決まったのか、また当時の住民の感情の傾向はどういった状況だったのか。原発があることによたらされる恩恵、それに伴うリスク、他県・他地域からのイメージ。気になることはいくらでも湧いてきます。

意識しない人間が増えるということは非常に危険なことです。意識していない人にとっては、貴重な情報もただの雑音かBGM程度にしかありません。つまり知識として頭の中に残らないのです。豊富な知識がなければ正しい判断などできないでしょう。よって意識していない民衆は意識をしている者に比べ非常にコントロールしやすく、そんな「無意識」層が有権者に占める割合として増加した結果、地域全体が思いもよらない事態に陥る可能性もないとは言いきれないのです。自分のことだけ考えるのが若者の特権なんと言う人もいますが、やはり若者の目を地域に向けさせる、いやむしろ「釘づけにする」くらいの何らかの働きかけが必要なのではないでしょうか。「地域の会」に期待します。

「してよかった」が大切

刈羽村 安達 和さん

八月三十一日の朝、大根の種を買いに出かけました。そこで消防自動車とすれ違いました。ライトをつけ、サイレンを鳴らして走っていく車に「もしや、原発で」、とっさに思い浮かぶのが原発。それが、地元で生活している者の正直な気持ちです。

先日、防災の番組を見ました。その中で、笑顔で語る「してよかった」という言葉が心に残りました。津波の避難指示で高台に避難したけれど、結局津波は来なかったときの言葉です。命を守るには、「すればよかった」と後で後悔するより、「たとえ空振りでも、してよかった」が大切だということが分かりました。笑顔は、「何事もなく本当によかった」とほっとした気持ちからでした。このことは、原子力発電所でも同じことだと思います。そのときになって後悔しても、命は守れないのです。

柏崎刈羽原子力発電所の七号機にトラブルがあり、燃料棒に微小な穴が開いて放射性物質が漏れたためと推定されていました。そして、原子炉を停止して交換することが検討されていましたが、九月一日にようやくそれが決定しました。こういうときこそ、「してよかった」となって欲しいと思っていたので、まずは、ほっとしました。たとえ小さなトラブルと思われることでも、きちんと対応することが大切だと思います。

「視点」では皆様のご意見をお待ちしています。
宛先は下欄住所まで、またメールでも受付けております。

今後の「地域の会」定例会の開催案内

第77回定例会

日時：平成21年11月4日(水)午後6:30~
 場所：柏崎原子力広報センター(研修室)

第78回定例会

日時：平成21年12月2日(水)午後6:30~
 場所：柏崎原子力広報センター(研修室)

※開催日時や場所は変更になる場合がありますので、詳しくは事務局にお問い合わせ願います。

会は公開で行われています。傍聴はお気軽にお越し下さい。

地域の会ではホームページで活動の全てを公開しています。
 ホームページでは活動状況をタイムリーにお知らせすると共に、会議録、会議資料の全文を公開しており、資料をダウンロードすることもできます。
 また、ホームページおよび地域の会に対するご意見・お問合わせについて、ホームページ上からも受け付けています。

<http://www.tiikinokai.jp>